

# 若年認知症コース利用者地域とのかかわりについて

世田谷区社会福祉事業団 デイ・ホーム太子堂 笠原康右  
矢澤麻衣

## 1. 若年認知症コースの経緯

平成22年4月からデイ・ホーム太子堂では、毎週土曜日に若年認知症コースを運営している。また、本人への支援だけでなく、家族交流会の開催やケアマネージャー及び医師との連携を密に図り、家族への支援に努めている。

開設から一年半が過ぎ、利用者数は7名になった。人数の増加に伴い、認知症の原疾患が違うメンバーも増えた。このような中、メンバー同士の仲間意識を高めるために、コース名をメンバーと職員で話し合った。メンバー各自が初回通所からの思いを話して、皆で気持ちを共有した。そこで共有した「何か新しいことを一緒にチャレンジしたい」という気持ちを込めて「**ともに**」に決定した。

今回のテーマは、せたがや福社區民学会第2回大会の講評で「地域への展開が課題となる」とのご意見を頂いたため、このことを踏まえて実施した「**ともに会**」について報告する。

## 2. 「ともに会」とは

活動を行っている中で、メンバーから「何かをしたい」と発言があった。メンバー自ら情報を発信したいという気持ちを尊重し、「**ともに**」が小学校の校庭解放を借り活動していることから、身近な地域の子どもたちとつながりを持つことを考えた。

子どもが喜ぶことをテーマに考え、朗読を主とした会を行うこととなった。メンバー全員で活動できるよう、個々の能力を活用することで、一人ひとりが自信を持てることを目的とした。

## 3. 「ともに会」でのメンバーの様子

- ① メンバー同士が共通の目標を持って活動した
- ② メンバーそれぞれが役割を認識し行動した
- ③ 自分の役割を考え、今自分に出来ることを表現した
- ④ 朗読の練習を重ねるうちに、自ら役を担いたいと発言があった
- ⑤ 当日、参加したくないと欠席者が出た

## 4. 今後の課題

- ① 認知症の原疾患の違いによるケア
- ② 個々が満足のいく集団活動と個別の活動の提供
- ③ 専門的な評価表の作成・記録
- ④ 若年認知症コースの利用日拡大
- ⑤ 地域への啓発活動